松木　純子 議員

分別から始めるごみ減量戦略～将来世代にツケを残さないために～

問 **ごみ減量は単なる環境施策ではなく、財政を守り、災害に備え将来世代への責任を果たす施策であるという認識はあるか**

答 **ごみ減量化への取り組みは廃棄物処理施設の円滑な運営や市の財政負担の軽減にも繋がり、財政・環境の両面で子や孫世代に責任を果たす取り組みであると認識しております**

問 **本市の1人あたりごみ排出量が他市町と比較して多い状況を踏まえ、具体的な削減目標は設定しているか。**

答 **環境部長**

令和7年度における1人1日あたりのごみ排出量の計画目標値は811グラムですが、目標値に対して排出量が相対的に高い水準であることから、更なるごみ減量化の取り組みを推進していく必要があるものと考えています。

問 **燃やせるごみを減らす政策の目標はあるのか。市民インセンティブ制度導入の検討や、ごみを出さない仕組みへの転換をいつまでに行うのか。**

答 **環境部長**

「高島市一般廃棄物処理基本計画」においてごみの削減目標などを設定しており、今後も目標数値の達成状況を定期的に検証しながら、必要に応じて施策の強化を図ってまいりたいと思っています。

市民インセンティブ制度の導入は、ごみ減量の行動を後押しする有効な手法の一つであると認識しております。費用対効果など検証したうえで、市民の行動変容につながる施策を研究してまいりたいと考えています。

問 **ごみ減量は単なる環境施策ではなく、財政を守り、災害に備え将来世代への責任を果たす施策であるという認識はあるか。**

答 **環境部長**

平時からの習慣的なごみ減量化への取り組みは、有事における廃棄物処理施設の円滑な運営や市の財政負担の軽減にも繋がり、財政・環境の両面で子や孫世代に責任を果たす取り組みであると認識しています。

問 **高島市内の学校では、児童生徒が実際にごみを分別する体験や学ぶ取り組みはどのように行われているか。**

答 **環境部長**

令和7年度は、マキノ東小学校ならびに新旭北小学校の児童約50名を対象に環境学習会を実施したところです。

また、環境センターではマキノ南小学校ほか3校の児童約80名の方を対象に稼働中のリサイクル施設の様子を見学するなど、環境学習の受け入れを行っています。

その他の質問

新ごみ処理施設計画の決定プロセスは適切であったのか
～将来世代への責任について～